

障がい特性に対応した心のバリアフリー

障がいなどのそれぞれの特性やどんなことに困っているのかをよく理解した上で、どのような配慮が必要なのかを考えて、適切な方法でお手伝いをしましょう。

声かけしましょう

障がいのある人や高齢の人が困っている様子であれば、「何かお困りですか」、「お手伝いしましょうか」と、まず声をかけてみましょう。しかし、周りの手助けなしで自分でやりたいと思っている人もいます。断られても、善意は伝わりますので、がっかりしないでください。

よく聞きましょう

困っていることは人によって違います。勝手な思い込みや判断をしないで、何を手伝ってほしいかをよく聞きましょう。自分だけで手伝うのが難しいときは、周りの人にも声をかけて手伝ってもらうのも良いでしょう。

行動してみましょう

聴覚障がいの人、内部障がいがある人、おなかがまだ目立たない妊娠初期の人など、外見からは分かりにくい人がいます。そうした人が、街中などで適切な配慮を受けられるように「ヘルプマーク」、「耳マーク」、「マタニティマーク」(30~33ページ)などが設けられています。こうしたマークを着けている人を見かけたら、できることから行動してみましょう。

音声コード

